

色覚検査について

これから夏に向けて、雨のあとに虹が見られることがありますね。虹は色の数はいくつでしょうか？

日本では外側から「赤橙黄緑青藍紫」の7色といいます。ところがアメリカでは6色、ドイツでは5色だそうです。このように同じ虹でも色の表現が違ってくるのは、色を識別する感覚である「色覚」が各個人で微妙に異なっているのが理由の一つです。

◎ 色覚検査の現状

小中学校での色覚検査は平成15年に中止され、昨年から再開されました。中断期間があったので、ご本人・ご両親・学校の先生の間でも結果の受けとめかたに混乱があるようです。もし色覚に異常があっても目に映る風景はカラーの映像です。決して白黒の世界ではありません。色覚異常の頻度は、男子の5%（20人に1人）です。欧米では4~8%の頻度です。病気ではないので、悪化はしないし視力には影響ありません。

◎ 見分けにくい色の組み合わせがある


色覚異常で困るのは、「赤と緑」「緑と茶色」「ピンクと灰色」などの、見分けにくい（混同する）色の組み合わせがあることです。しかし例外も多く、医師の側からマニュアル化して説明することは大変にむずかしいです。

◎ なぜ検査が必要でしょうか？

本人は、色覚が他の人と異なることを自覚していることが多いようです。逆に身近な家族でさえ気付いていないこともあります。そのため検査できちんと調べておくことが重要です。検査は将来の進学や就職の準備の一つでもあります。以前は、多くの職業で色覚の制限がありました。たとえば医療（医師・看護師・検査技師など）はその一つでしたが、今は制限はありません。ただし現在でも、制限がある職種があります。

- ① 資格取得制限があるもの : 警察官、消防官、自衛官、航空機乗務員、電車運転士など。
- ② ハンデになるもの : CG画像処理・印刷・塗装・染色など。
食べ物の鮮度や焼け具合の判定が重要な職種（すし職人や板前、肉や野菜の販売）。

進学や就職の直前にあわてないように、自分の色覚の状態や前述の制限などについて普段からできるだけ情報を多く集めておくことが望ましいです。小中学校の色覚検査で異常が指摘されたなら、眼科の専門医で精密検査をうけて、心配が残らないように相談をすることが大切です。

<参考ホームページ> 色覚問題研究グループ  <http://www.pastel.gr.jp/>

【眼科診療部長 丸山 泰弘】

